

花はまた一年過ぎば咲きぬべし

君を見ん日はいつと知られず

わかれ居て次に見ん時益良雄は

いやますらをとともおとろかす

直に性情を吐露して、天真飾らず、洵に是れ響を萬葉の古調につぐもの。憶起す、去年四月函嶺にあり、勃然として遊意動き直に京に下り、東圃と花を嵐山に観る、今年嵐山の花開て、我東圃と相見る能はず、明年の花期、嗚呼我は何處にかあらん、もし相見るを得るも、我は依然たる舊阿蒙、君に愧づること多し。

### 國府犀東

國府犀東も亦金澤の人、家、犀河の東涯にあり、故に號す、侗儻卓犖、常に自らいふ、我當さに總理大臣たるべしと、其抱負此の如く大、故に屑々として細瑾を顧みず、嘗て大學政治科にありたれども、拘束に堪へずして退き、今毎

日新聞社にありて、操觚に従事す、其大學にありし時、伊東已代治氏に知られ、學資を氏に仰ぐ、而して犀東『日本人』に投書して、切りに時の内閣を攻撃せり、彼の事に拘せざる概ね此類也、犀東の文雄邁勁拔、且健筆無雙、其偉人叢書中の『大鹽平八郎』の如き僅々數日にして成れるもの、又詩を能くし、その之を作る甚だ推敲を費さず、嘗て酔て青樓に遊び、一夜治春詞十五首を作りしとあり、彼れ自ら常に一錢を貯へず、錢を得れば則ち醉飽流連、散し盡くさずんばやまず、去年夏我作より歸つて京に在りし時、彼れ貧甚だし、一切典し盡くして唯身に纏へる一弊衣あるのみ、暫く來つて我と共に居る、一日飄然として外に出て、歸來していふ、我十金を得たり、今より將さに松島に遊ばんとすと、其夜直に去つて東に向ふ、

路○入○磐○州○涼○味○多○、  
滿○野○秋○光○七○草○花○、  
舉○目○山○水○皆○秀○麗○な○り○、  
白○河○の○關○、  
殘○壘○に○  
松○茂○生○し○、  
月○明○に○し○て○星○稀○、  
坐○ろ○に○懷○古○の○情○に○堪○へ○ず○、  
明○日○着○仙○の○筥○、  
松○島○  
に○四○五○日○滯○留○

是れ彼が磐州福島より我に寄せしもの、更に仙臺より書を寄せていふ、



明日は十五夜、舟を松島灣に泛べいと欲す、唯天空の清澄ならんことを祈るのみ、庭前の萩、尾花、桔梗、女郎花、藤袴、葛など秋光正に好し、既にして彼れ彼地に淹留して、久しく歸らず、彼が奇行往々此の如きものあり、彼又禪に於て悟通すると深し、其磊落の風蓋し之に得るある歟、彼軀幹魁梧、巍然たる偉丈夫、局量又濶達、天地を吞吐するの概あり。

うろと雲 終

明治三十八年六月十二日印刷  
全三十八年六月十五日發行

うろと雲  
定價金四十錢

著者 田岡佐代治

發行者兼印刷者 小林慶

發行所 嵩山房

印刷所 株式會社 秀英舍



發賣所

東京本郷一丁目  
全日本橋上橫町  
全神田表神保町  
大阪南久寶寺町

東亞堂  
如山堂  
東京書店  
前川書店

大阪備後町  
京都寺町通  
名古屋本町  
久留米米屋町

吉岡平助  
若林書店  
川瀨代助  
菊竹書店

株式會社 秀英舍  
東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

東京市下谷區中根岸七十五番地

東京市下谷區中根岸七十五番地



新刊及近刊圖書

田岡嶺雲君著

壺中我觀

全一册

定價 四月十旬發  
郵稅 六十五錢行

壺中觀一たび出て、忽ち發覺禁止の厄難に逢ふ蓋し其文奇矯其旨熱烈なるに由る乎本書は即ち其後身なり

正岡藝陽君著

人道論

全一册

定價 四月二十日發  
郵稅 六十六錢行

人道とは何ぞや之れ日本國民の使命也理想境也而して併せて世界人類の使命也理想境なり吾人の立脚地は實に最高最美の人道にあり

石島古城君著

彩畫法

全一册

定價 四月五錢入  
郵稅 四十五錢

東京美術學校教授和田英作君の親切なる校園に因りて一段の光彩を添へたり卷首の「富士山腹隨縁の圖」は英國水彩畫家の筆に成りたるものにて帝室博物館の御所蔵なり

文學士 登張竹風君序  
閨秀作家 鈴木秋木君子著

著者曰く

人生の疑問は女子あるが故に解釋し難き乎、從來女子を以て忌むべき悪魔の化神と云ひ或は美神の權化と云ふも均しく男子の偏見なりと

全一册 ● 定價金卅錢 ● 郵稅金六錢 ◎ 郵券代用諾

▲ 四月二十五日發賣 ▼

男子の見たる女性觀は世既に其多きに飽けり然れ共女子の女性觀に至りては世人の間かんと欲して未だ聞く能はざりし處なり著者の此著ある蓋し男子の評論に對し聊か酬ゆる所あると共に亦自ら婦人を戒しむる所あらんが爲めなり著者風に閨秀作家として名聲あり其觀察に至りては最も精妙に論斷は最も的確に趣味津々として湧くが如き文字の間に巧みに婦人の光明と闇黒との表裏を解剖して亦遺憾なく青年男女の研究を待つべきものなり



女子の本性

青柳有美君は

予の如き婦人攻撃専門家の爲めに實に得難き好材料なりと賛し天下の男子の歓迎を疑はずと稱揚せ

東京市本郷區上目町  
五番五十七番

嵩東如山堂  
山亞山堂  
房堂  
小伊今  
林東津  
新兵書  
衛兵書



文科大學生 種田豐藏君筆

筆

奉書摺 定價金 參拾五錢  
全一折 郵税金 四 錢

書は心の華なり養ふては精神の陶冶となり發しては個人を語る我國字平假名の性特に此天職に富む當今の士女之れが道を輕んずるを慨き茲に文科大學中能筆の聞えある種田豐藏先生三寸の管丈を揮ひ靈機の一心に訴へて古今集中十六首を書し今や剞劂に附して忽然江湖に見ゆ四方の諸彦幸に一本を求めて眞價を評し給へ

橘千蔭大人眞蹟

霜 月 帖

奉書摺 定價金 參拾五錢  
全一折 郵税金 四 錢

右は千蔭大人の作霜月冬至の歌を寫眞木版に取りたるものなり其筆力墨色等眞筆と少しも異なる所なし

烏石山人編并書

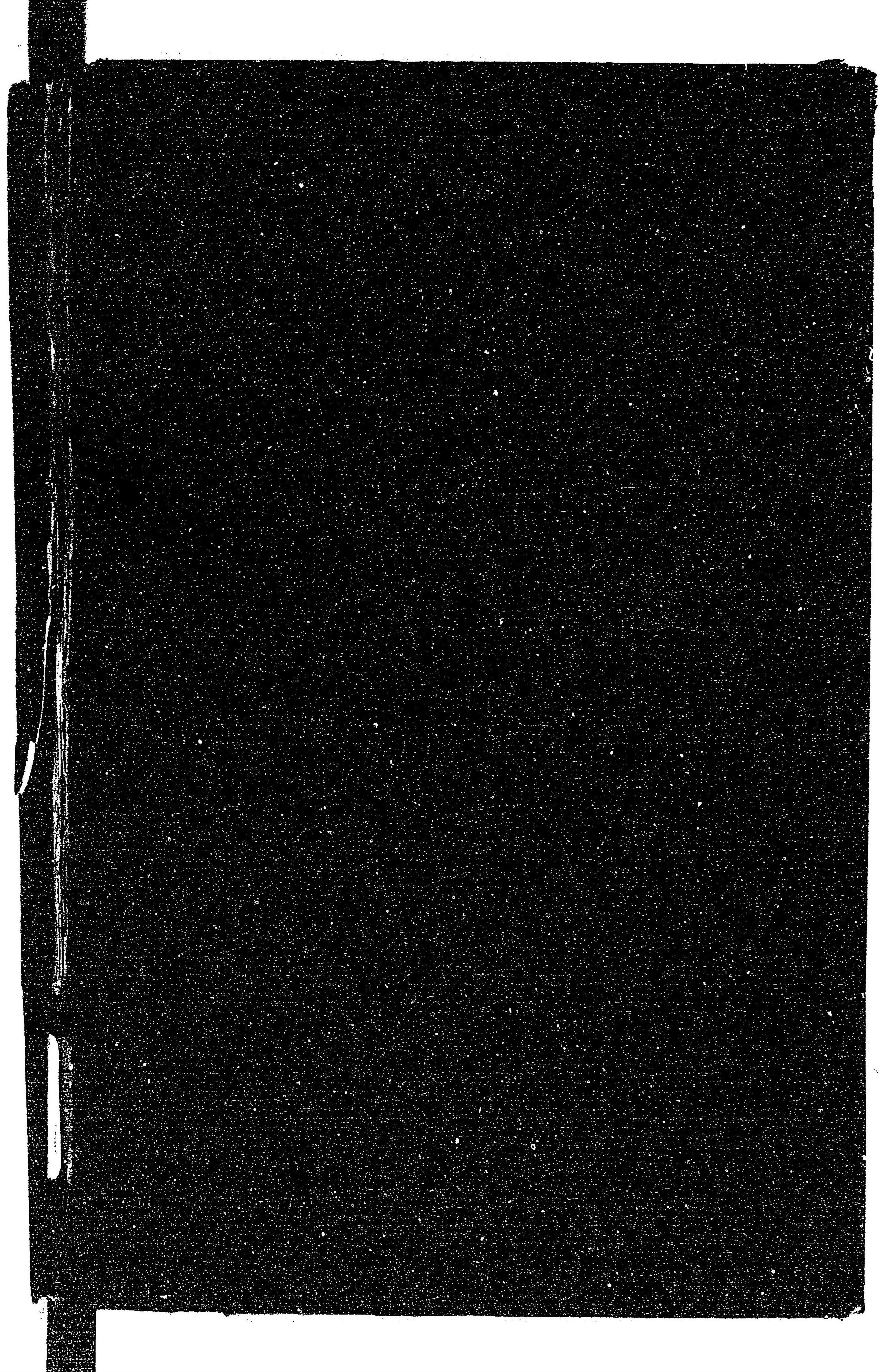
烏石和文章

大本 定價金 貳拾錢  
全一折 郵税金 六 錢



|    |
|----|
| 99 |
| 76 |







99  
76

039461-000-0

99-76

うろこ雲

田岡 嶺雲/著

M38.6

BDA-0010





